

109 學年度第一學期 Eurasia 基金會國際講座

「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」(4)

議題：アイデンティティ・クライシスとアジア共同体の未来

第4回 Eurasia 基金会国際講座は、蔡東杰中興大学法政学院院長を招聘して行われた。蔡院長は中興大学で2015年から2017年まで本基金会の経費を受け、三年間活動した。院長は次のことを述べた。これまでアジア共同体は一つの概念、スローガンに過ぎず、具体的な成果にとぼしく、依然として多くの困難、解決すべき問題を抱える。1990年から2010年まで世界中でFTAの協定国は増加傾向にあったが、2018年からの米中貿易戦争、今日のCOVID-19の世界的蔓延により、国際活動は火急の要でないかぎり中断せざるを得なくなり、この先の国際協力は一つのきわめて大きな挑戦である。

蔡院長はまずアジアの基本データから説明した。Asiaはギリシャ語で、東方を意味する。アジアは地球の約30%の面積を占める世界最大の陸地であり、世界の三分の二の人々が暮らす。アジアには中国とインドの二大人口大国、古代三大文明発祥のメソポタミア、インダス河、黄河がある。現在アジアには43の国家、千を超える民族がおり、すべての宗教はアジアを源とする。

続いて院長はアジアの連合力について説明した。20世紀末に東アジア経済は急速に発展し、日本の奇蹟、四小龍の奇蹟以外に、さらに新四小龍、中国の勃興がある。1993年世界銀行は東アジアの経済奇蹟を認めた。2008年に金融危機が発生すると、それはグローバルな危機へと広がったが、アジアは金融危機後の推進役を担い、金融体系の稼働を支えた。東南アジア諸国連合は1967年に始まり、諸国連合のモデルとなる見本を提示した。すなわちASEAN Plus Oneで、最初に中国が協定し、その後日本、韓国、インド等が加入した。このためアジアは90年代の終わりには外国資本(FDI)の投資先のトップになったが、最近の十年は逆に対外投資を行っている。その後、北米自由貿易協定(NAFTA)のような北米と西欧の連合が登場した。

アジア連合の転換点に関し、院長がアジアの第一歩としてあげたのはAPECである。APECは1989年日本とオーストラリアにより推進され、台湾が参加し得る最も重要な地域組織であり、東アジア、太平洋、北米、ラテンアメリカにまたがって、地域を越えた対話の舞台となっている。1993年にAPECの転換がはかられ、首脳会議が招集された。第一回の開催はシアトルで、FTA(多国間自由貿易協定)の締結、多国間自由貿易区の構築をめざした。最終目標はアジア太平洋自

由貿易区の成立である。

2000 年以降アジア諸国は異なるアジア共同体の概念を提起するようになった。2005 年に第一回東アジア首脳会議（EAS）が開かれたが、重要な象徴的出来事が二つある。一つは東アジア共同体の成立を議題にしたこと。二つ目は APEC との差異、すなわちアメリカを抜きにしたことである。2011 年東アジア首脳会議は拡大して、アメリカ、ロシアが加入した。2015 年東南アジア諸国連合共同体が生まれ、2016 年アメリカの TPP、2018 年日本の CPTPP、中国の RCEP が発効した。

アジア連合の第一の障害は主権観念に捉われ、連帯経験が足りないことである。第二にアジア各国がまだ経済協力の初期段階にあり、累積する信念や効果が不足していることである。第三は東アジア、中央アジア、西アジアの政体が異なり、容易に連帯できないことである。この第三の要因により、大国が口を出して強権争いの危機を招き、政治と経済の問題を複雑にしている。

それでは如何にしてアジアのアイデンティティを確立するのか。院長の考えはこうである。種族民族を越えた対話の推進を第一歩とすること。種族民族こそ連続的共同記憶を持った集合体であり、この記憶がアイデンティティを決定し得る。次に宗教的和解の可能性を考えることである。他にシルクロードの概念がある。過去にシルクロードと呼ばれた貿易路はアジアを包含していたが、ヨーロッパが海洋時代をもたらすと、アジアのシルクロードは消滅した。ただし、新シルクロードの地縁的意義は考えることができる。最後にコミュニケーションである。コミュニケーションを取れば共通認識は可能だし、共通認識があればアイデンティティの確立も可能で、先進科学技術の利用、交通、通信技術を使って交流と対話を進めることができるだろう。

その他に蔡院長は世界には様々なシルクロード案があることを述べた。日本は 1989 年いち早くシルクロード外交を提唱し、2008 年には国連も提唱して、各国が困難解決に協力するよう求めた。2009 年韓国の李明博大統領は「新アジア構想」を、ヨーロッパ連合は「中央アジア新パートナーシップ」を提唱した。2011 年アメリカのヒラリー・クリントンは「ニュー・シルクロード計画」を、ロシアは「ヨーロッパ・アジア経済連盟会議」を、2013 年には中国が「一带一路」を提唱した。

最後にアジア共同体の展望に対して、蔡院長はまだまだ道は遙遠であるが、「塵も積もれば山となる」と語った。とりわけ現在 COVID-19 に直面し、過去にあった高レベルでの国家間のやり取りや繁栄は戻ってくるのだろうか？ 院長は今後の展望にはいくつかの方向が考えられると述べた。

- (1) サブリージョナリズムを経て自信につながる道筋
- (2) 西洋から東洋への基軸の転換によるチャンスと挑戦

(3) 経済から軍事、政治、文化面へ向かう発展。

(4) 地域意識と新たなアイデンティティの基礎。

(Web サイト:<https://Eurasia.pccu.edu.tw/faculty.php>)

(原稿:陳毓敏・日文系副教授)

(日本語訳:塚本善也・日文系副教授)